

2017年12月10日 学生平和研究会 於明星大学

# 文化的暴力についての考察

——日本における平和教育実践を事例に

都市イノベーション学府博士課程後期  
高部 優子

# 問題意識

## 平和の問題に対しての我々の思考

支配者は戦争を起こしたい時に、教育やメディアを利用し、「暴力の文化」を人々の間に行き渡らせることにより、暴力が振るわれることに対して疑問や否定の感情を持たせないように操作する（伊藤2001）。

権力組織は、自分たちおよび社会にとって好ましくないと考える書籍や歌、映画などを、禁止や規制などを行うとともに、人々を抑圧するのではなく、自らを受け入れ従う主体を作り出すために、芸術を利用するという（松浦2014）。

→暴力の文化

# 研究の背景① 暴力の文化

- 戦争を賛美し戦争を準備する教育
- 貧富の格差を拡大するグローバル化
- 自然環境をそこない破壊しつづける過度の大量消費や軍事活動
- 植民地主義および新植民地主義
- 人種・宗教・民族ジェンダーの違いに対する不寛容
- 女性への差別
- 子どもや若者への虐待
- 民主主義や公正なグローバル・ガバナンスの欠如
- 文化的な暴力や地域社会での暴力

(リアドン2005)

# 研究の背景① 暴力の文化

暴力の文化は、恐れているから発言できない、行動できない、予防できない、という恐怖(“fear”)の文化でもあり、長年にわたって女性を黙らせてきたし、平和主義を拡大しようとする動きに歯止めをかけてきたわけである。「文化的暴力(Cultural Violence)」と、それが構造化された「構造的暴力(Structural Violence)」は、世界のあちこちに未だ蔓延っている。

(奥本2002)

# 研究の背景① 暴力の文化→平和の文化

- 1986年 「暴力についてのセビリヤ声明」
- 1989年～ ユネスコ:「平和と非暴力の文化」の普及
- 1999年 国連総会:「平和の文化に関する宣言と行動計画」
- 2000年 国連:「平和の文化国際年」
- 2001年～2010年 「世界の子どもたちのための平和と非暴力の文化国際10年」

平和の文化の定義：価値観、態度、行動の伝統や様式、あるいは生き方の一連のもの

→広く浸透していない

日本ユネスコ協会連盟は、平和の文化が大きく広がっていない原因を、平和の文化という言葉がまだ抽象的で、人びとのものの見方や考え方、態度や行動などを変えていく具体的なイメージをともなっていないからだ」と指摘。

## 研究の背景②ガルトウング平和理論の主要概念ー暴力

19世紀～1930年代 平和の科学という名称で研究

1950年代 平和学:戦争の諸原因と平和の諸条件に関する研究

①冷戦、核戦争の危機

②南北問題

③紛争解決の手段

1968年 スガタ・ダスグプタ Peacelessness(非平和)

## 研究の背景②ガルトゥング平和理論の主要概念ー暴力

消極的平和(Negative Peace): 直接的暴力がない状態

積極的平和(Positive Peace) : 構造的暴力がない状態

1969年の論文「暴力、平和と平和研究」("Journal of Peace Research" Vol.6, No.3)



消極的平和(Negative Peace) :

直接的暴力、構造的暴力、文化的暴力がない状態

積極的平和(Positive Peace) :

協力、衡平・平等、平和の文化・対話などの存在する状態

(Galtung2007)

# 研究の背景②ガルトウング平和理論の主要概念ー暴力

分析対象＝暴力

暴力の3つの形態

直接的暴力(DV)

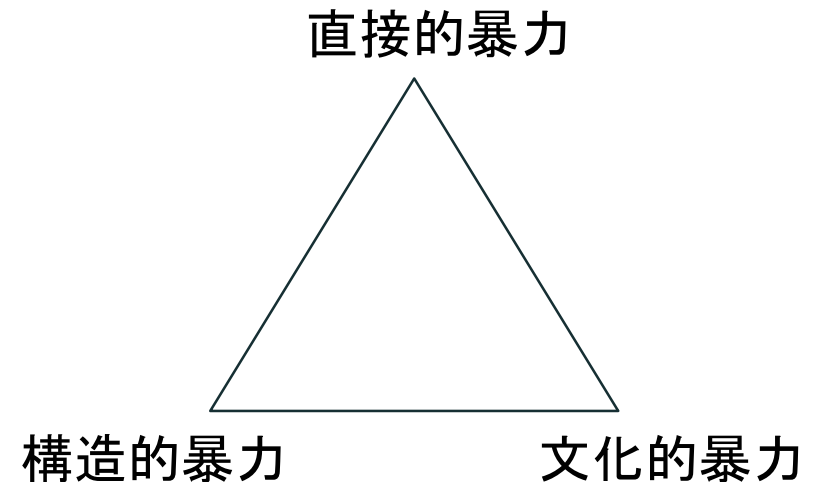
加害と被害が明瞭。目に見える

構造的暴力(SV)

社会構造の中にある目に見えない暴力

文化的暴力(CV) (Galtung1990)

直接的暴力、構造的暴力を正当化や受容する考え方、態度





# 研究の背景②ガルトウング平和理論の主要概念－暴力

表4 直接的・構造的・文化的暴力／平和及び消極的・積極的平和

暴力	直接的暴力 (DV)	構造的暴力 (SV)	文化的暴力 (CV)
平和	直接的平和 (DP)	構造的平和 (SP)	文化的平和 (CP)
消極的平和 (NP)	DV の不在 (休戦・砂漠・墓場)	SV の不在 (搾取の不在・ 構造の不在)	CV の不在 (正当化の不在・ 文化の不在)
積極的平和 (PP)	DP の存在 (協力)	SP の存在 (衡平・平等)	CP の存在 (平和の文化・対話)
平和	NP+PP	NP+PP	NP+PP

(Galtung, Johan, "Introduction: Peace by Peaceful Conflict Transformation—the TRANSCEND Approach," Handbook of Peace and Conflict Studies. Webel, Charles P; Galtung, Johan, eds. Abington, Routledge, 2007, p.31; 邦訳・奥本 京子(トランセンド研究会・前会長)『平和ワークにおける芸術アプローチの可能性』法律文化社 2012年3月 p.25)

# 研究の目的

文化的暴力の概念整理

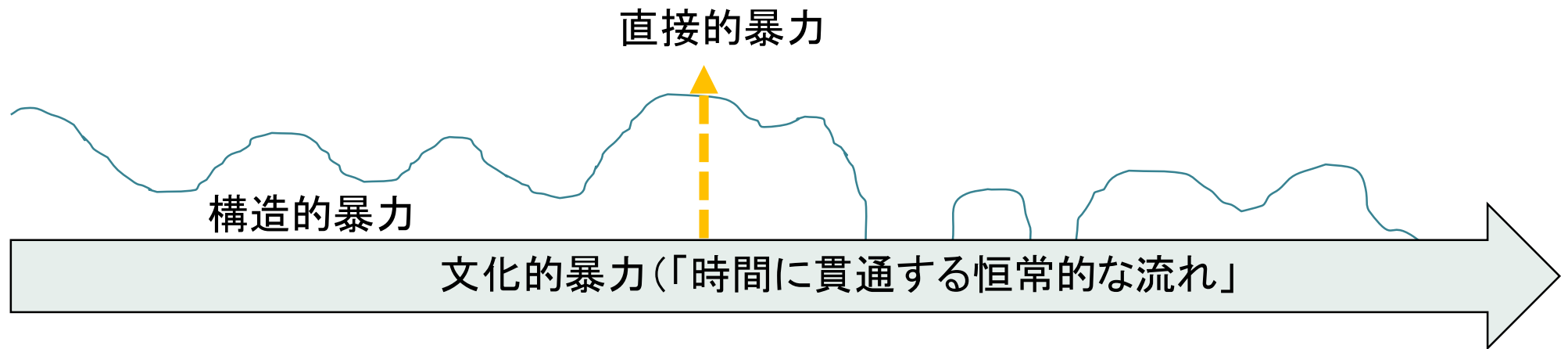
# 研究の方法

文化の定義、暴力の定義

日本の平和教育実践からの文化的暴力の具体化

# 先行研究①文化的暴力

ガルトゥングは、文化的暴力の概念を「直接的暴力または構造的暴力を正当化あるいは合法化するために利用される、われわれの存在の象徴的領域である宗教とイデオロギー、言語と芸術、経験科学と形式科学(論理学・数学)などの文化の諸側面」と定義



ガルトゥングの論文から筆者が作成

# 先行研究②文化の定義

狭義では、音楽、舞踏、文学などの芸術。

広義では、文化人類学者エドワード・タイラーが1871年に、文化、あるいは文明の定義として、知識、信仰、芸術、道徳、法律、慣行、その他、人が社会の成員として獲得した能力や習慣を含むところの複合された総体とした。

ギアツによると「文化は、象徴に表現される意味のパターンで、歴史的に伝承されるものであり、人間が生活に関する知識と態度を伝承し、永続させ、発展させるために用いる、象徴的な形式に表現され伝承される概念の体系を表している。」

(ギアツ1987)

①規範としての文化、②生活様式としての文化、③芸術としての文化(イーグルトン2006)

# 先行研究③暴力の定義

A・エチオーニ: 経済的強制 (economic coercion) 心理的強制 (psychic coercion)

宝月誠: シンボリックな暴力

田中雅一. 1998『暴力の文化人類学』京都大学学術出版会

ピエール・ブルデュー: 象徴暴力

# 先行研究④プロパガンダ

1920年代～

政治的プロパガンダの効果を実証的に測定[心理学、社会学]

- ・1938年「火星からの侵入」、弾丸理論、皮下注射効果  
(オーディエンス＝メディアに操作される受動的な存在)

1940年代～60年代

- ・ピープルズ・チョイス、満足研究 (受け手→メディア)

70年代～

- ・議題設定機能モデル(「何が問題なのか」、効果研究の多様化)

→プロパガンダやマス・コミュニケーション研究は、マスメディアの「効果」を問題にしてきた

# 先行研究⑤日本の平和教育

戦後の日本の平和教育 数多くの実践

\* 日本の平和教育は膨大な実践はあるものの、学問的研究は少ない

平和教育をどう行うかという方法論が重視されながらも、学問的な検証があまり問われなかった、各研究者が自己の平和教育論を展開することに終始し、学問としての成立をめざすことなく、研究成果を体系的に整理してこなかった(村上2009)

→平和教育学の必要性(堀江、竹内、村上、金、野島等)

2005年～平和教育学研究会、博士論文



# 先行研究⑤日本の平和教育

竹内は「平和教育の実践に即して考察すれば、「構造的暴力」論を持ち込む必然性は見出しがたい(竹内2011)」、村上は「広義の平和教育概念は、平和教育のアイデンティティが拡散する危険性(村上2009)」→「一義的に狭義の平和教育とそれに直接的に関連する周辺事項として、その関連事項を二次的な研究対象と規定するのが望ましい(村上2016)

→平和教育学の研究対象があいまい

平和教育の教育学的アプローチ(竹内)、社会学的アプローチ(村上)、平和学的アプローチが求められている(村上2009)

ガルトゥング理論による平和教育の体系化

# 分析①教育理論による文化的暴力

「教育から見て、暴力の文化から平和の文化への転換は、以下のような内容で構成されると考えられる。

①表現とコミュニケーションの方法としての平和の文化、／②平和の場、平和と自治の方法が学ばれる場としての学級生活、学級文化の形成／③平和の価値を促進する学習内容と学習方法の開発／④対立と紛争を平和的に解決する民主主義、相互理解、寛容、共生の方法と力の獲得／⑤平和の方法としての民主主義政治についての認識と参加の力量の形成／⑥戦争反省をふまえた平和と民主主義、平等と共生への歴史像と歴史認識の形成／⑦暴力や差別を拡大する文化(アニメ、映画、ゲーム文化等)への批判と克服／⑧戦争についての認識、軍隊や兵器や世界の現実、未来構想としての平和の思想の形成／⑨環境問題を介した21世紀の世界の平等、平和的な共生の論理とイメージの形成」(佐貫2001)

# 分析②平和教育実践分析

日教組(小中高)、全教、『平和教育研究』

# 考察

# 今後の課題

メディアリテラシー実践分析

メディア(マスメディア、インターネット)

# 参考文献

伊藤武彦.2001「攻撃と暴力と平和心理学」心理科学研究会(編)『平和を創る心理学:暴力の文化を克服する』ナカニシヤ出版.p18

Galtung, Johan. "Violence, peace, and peace research." *Journal of peace research* 6.3 (1969): 167-191.

Galtung, Johan. "Cultural violence." *Journal of peace research* 27.3 (1990): 291-305.

Galtung, Johan, "Introduction: Peace by Peaceful Conflict Transformation—the TRANSCEND Approach," *Handbook of Peace and Conflict Studies*. Webel, Charles P; Galtung, Johan, eds. Abington, Routledge, 2007

イーグルトン・テリー、2006、大橋洋一訳『文化とは何か』、松柏社、p38 (Terry Eagleton, 2000, "*The Idea of Culture*")

奥本京子. 2002「ヴァージニア・ウルフ著『三ギニー』に見る平和主義と「暴力の文化」への考察: 男達の"feared"と女達の"feared"」『紀要』32, pp65-75. 大阪女学院大学・短期大学

# 参考文献

ガルトゥング・ヨハン／藤田明史編著.2003『ガルトゥング平和学入門』法律文化社.p118

ギアツ,クリフォード. 1987『文化の解釈学 1』. 吉田禎吾他訳, 岩波書店.

佐貫, 浩. 2001. 教室の暴力の文化と平和の文化 (平和教育・平和文化). 教育學研究 68 (1) (03/30): 76-8,

竹内久顯2006「『平和教育学』への予備的考察(1)－日本国憲法の教育学的解釈」『論集』  
東京女子大学

2009「平和教育をつくり直す」『平和学を学ぶ人のために』世界思想社

2009「『平和教育学』への予備的考察(2)－『平和教育批判』論の批判的検討」『論  
集』東京女子大学

2010「平和教育学の課題－人間学的視点に立つ平和教育の考察」『総合人間学4』  
学文社

2011「『平和教育学』への予備的考察(3)－平和教育学の課題と方法」『論集』東京  
女子大学

2011『平和教育を問い直す』法律文化社

# 参考文献

保障研究: 乖離する「拡大」と「深化」『「安全保障」を問い直す』平和研究 43: 25-49.p43

福島安紀子. 紛争と文化外交——平和構築を支える文化の力. 慶應義塾大学出版会, 2012.

藤井敏彦1972「平和教育の基礎的課題」『平和教育研究』1.p15

宝月誠. 暴力の社会学. 世界思想社, 1980.

松浦雄介. 2014「文化と権力」井上俊編『現代文化を学ぶ人のために』、世界思想社、pp81-96

村上登司文2009『戦後日本の平和教育の社会学的研究』学術出版会

横山正樹2009「構造的暴力と積極的平和」岡本三夫, 横山正樹 編.『新・平和学の現在』法律文化社p

リアドン・B. カベスード.A. 2005『戦争をなくすための平和教育』明石書店.p25